

タイトル:平成 23(2011)年度 教育セミナー

日時:平成 23 年 9 月 17 日(土)~20 日(火)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究 3 階 マルチメディア会議室(304)

「ムバラク政権末期の政治経済分析—エジプトの安定には何が必要か」

高橋 信哉(拓殖大学大学院修士課程修了)

2 年連続セミナーに参加させていただきました。

2010 年度は修士 1 年生が大半を占めていましたが、今回は修士の 2 年生と博士在籍者が大半を占めていました。「今の現実と、どう向き合うか」「自分にはない部分をいかに取り入れていくか」という自分なりのテーマを設定して参加させていただきました。

<今回のセミナーで学んだこと>

今回のセミナーを通して、自ら進んで「環境」をつくる事の重要性を学びました。環境によって、人は左右されるからこそ、自ら、環境を創っていかなくてはならないと思いました。その環境によって、人間が創られていくということが分かりました。

それは先生方の経験談から学ぶことができました。

<書くことによって培われる問題意識>

「書く」「発表する」という、一見単純なことのようにみえますが、そのプロセスの繰り返しが、結果に結びつきます。そして、久々に、提出前の追われる感覚を味わうことができました。必死に発表資料を作成しているときの、あの何かに追われている感覚です。その「何か」というものが分かった時、自分の中にある問題がある程度片付き、次の課題に取り組むことができます。この感覚こそが、研究をしている醍醐味であり、生きがいのひとつでもあるということを思い出させてくれました。日々の生活に流されていて忘れかけていた大切なものを思い出すきっかけを与えてくれました。

<発表を終えて>

大学で行われる教育セミナーと聞くと、敷居が高いと感じ、参加を躊躇してしまう方もいるはずです。多種多様な様々な方々に参加していただくと、面白いセミナーができるのではないかと思います。今後は多数の参加者で埋め尽くされることを楽しみにしています。

2 年半ぶりの公の場での発表ということもあり、自分のテンポをつかめなかったのは事実です。そのような中、フォローをしていただいた飯塚先生に感謝申し上げます。発表後の質疑応答の中、今後の糧となるコメントをしていただいた諸先生方、受講生の方々に感謝申し上げます。

夜の飲み会では、論文の章立てと、今後の研究の方向性について、様々な先生方から、ご指導を頂きました。心より感謝申し上げます。